

特集 クリームソーダが恋しくて

02 etu

取 材で訪れた日は平日にもかかわらず、欧米やアジアからのインバウンドのお客さんで賑わっていた。異国の旅行者へ丁寧に接客する店主の橋本さんは、小さな頃から古道具が身近にあり、骨董屋へもよく足を運んできたという根っからの古道具好き。手持ちのアイテムが増えてきた頃、勤めていた会社が倒産。「やりたいことをやるなら今だ」と、2007年に「etu」をオープンした。幕末頃から昭和初期の日本の生活道具などのほか、今は諸外国のアイテムも多く取りそろえる。「古道具にはそれぞれに魅力がある。もったいないと思わずガンガン使っていって欲しい」。これが暮らしにレトロをうまくなじませるコツかもしれない。

使い方は1つじゃない
古道具の魅力

Yuki Hashimoto



橋本美樹



阿蘇神社の参道脇、門前町商店街の中ほどに位置。店頭のコヒーショップで休憩しながら、ゆっくりとアイテム選びを楽しみたい



店内には生活周りの食器や布、アクセサリー、小さな棚などの家具のほか、玩具やユニークなアイテムがところ狭しと並んでいる

☎ 090-3665-8290
 ㊦ 阿蘇市一の宮町宮地3093
 ㊦ 12:00→16:00
 ㊦ 水・木・金曜
 インスタグラム=@etu.1859



オランダ製の洗濯かごと布団たたき。かごは洗った食器を乾かしたり雑踏入れにしたりと使い方も自在。
 (左) 7,500円
 (右) 3,500円

Recycled Store

03 ONE PLUS ONE

長く愛用されるものを選ぶ
使う人が変わっても、

熊 本のセンスのいいお店のオーナーなら、この場所に一度は訪れたことがあるのではないかと。店主の荒金さんの好みでセレクトされた椅子やテーブル、食器などの「リサイクル品」は、さまざまなお店や家庭で新たな役割を果たしている。20代の頃働いていた木工所では、リユースしにくい店舗什器などを作っていた荒金さん。「世の中にあるすばらしいアイテムをメンテナンスして、長く使うのがいいんじゃないか」と感じ、14年前に開業した。「ご不要になったものはリサイクル店などを活用し、また好きなものを買う。そんなサイクルを楽しむためにも、長く使えるものを選んでいただきたい」と、教えてくれた。



見ていて楽しい、ポストモダンなデザインが国内で流行した80年代、幾何学模様をあしらった「CITIZEN」の時計もそのひとつ。
 6,000円



80年代のイタリアデザイン集団「メンフィス」の影響を受けて、日本のメーカーが作ったというポストモダンスタイルのお皿。
 3,600円



80年代に多くの支持を受けたファンシーなカップ&ソーサー。
 (左) 国内ブランド「Adam & Eve」2,700円
 (右) 日本製「PEARL」2,400円



Guri Guri



商品のそばには、荒金さんがバラロイドカメラで撮影した写真が添えられている。今回、撮影対応してくれた店長・グリグリにも会えるかも!



電話かInstagramのDMから事前に予約をして、ゆっくりと来店を。「買い取りもしているのですが、まずはご相談ください」と荒金さん



80年代の昭和後期から平成初期のポップなデザインが効いたグラス。かわいい上に飲み物を限定しない万能さもうれしい。
 各 1,980円

☎ 050-3593-2232
 ㊦ 阿蘇市黒川1699-3
 ㊦ 10:00→16:00頃までの完全予約制
 ㊦ 完全予約制
 インスタグラム=@one_plus_one_recycle_store

レトロ
はじめは
ここからは



ヴィンテージの布。ベッドやソファにかけたり、冬にはクリップで止めて間仕切りのカーテンにしたりと橋本さんも愛用している。
 19,000円



昭和初期から使われていたという椅子。座面はデッドストックの布を張り替えて、雰囲気もレトロなままに。
 25,000円



重厚感のある鉄製のランプ。ベッドサイドやスポット的な照明として使えば、部屋がグッとおしゃれな雰囲気。
 28,000円

01 つむぐ

玉 名市の観光名所、高瀬蔵の西側にある古い町並みを残した高瀬商店街。その一角に、古道具の店「つむぐ」がある。「私自身、飾るだけのものよりも使えるものが好きなので、テーブルや椅子とかそういうアイテムが多くなっちゃいますね」と店主の崎山さん。その言葉通り、店内にはモダンなデザインの椅子や多様な使い方ができるテーブル、大小さまざまな棚など、家具のラインナップが多いのも特徴的だ。長年、暮らしの中でも古物を愛用している崎山さんは、数年前に自宅を新築。大枠の空間づくりは大工さんをお願いしながらも、玄関の明かり取りにガラスが入ったレトロな欄間を取り付けたり、電笠のある照明を積極的に取り入れたりと、施工段階から古物を随所に採用。新しいものと古いものとを心地よく共存させた家づくりを叶えている(お家の記録はインスタ@itu.home2020をチェック!)

公私にわたって古物を愛する崎山さんは、熊本城二の丸広場隣接の護国神社で開催される「おしろい市」主催メンバーの一人。「2023年3月から始めて、4回目を10月19・20日に開催予定です。骨董や古道具、古家具、古着、美術的でおしゃれなレトロアイテムなど、さまざまなお店が出店します。古物が好きな方、これから取り入れてみたい方へは、いろんな古物に触れられる絶好の機会です!」と、さまざまな角度から、「レトロ」の魅力を広めている。



崎山由美



元々は、崎山さんのご実家が花屋を営んでいたというこの場所は、築130年という歴史ある一軒。ご主人がセンスよくリノベを手がけている



たくさんのレトロアイテムのほか、古物との相性いい海外雑貨も並ぶ。不定期でポップアップなどのイベントも開催している



2人掛けにちょうどいい机はラワン材使用で、折り畳みも可能。
 25,000円

☎ 080-1762-8372
 ㊦ 玉名市高瀬286
 ㊦ 11:00→16:00
 ㊦ 不定
 インスタグラム=@tsomugu2015

まずは古物に触れて、
知ってもらえる機会を



昭和の食卓を象徴するような、縁で編み込まれたレトロな魔法瓶のポット。
 (左)「象印」6,800円
 (右)「ヨット」脚付き 6,500円



大正時代頃のガラス製品は、気泡があたりまわっていたりするのも人気のポイント。お米やおやつの保存にも活用もできるガラス大瓶。
 5,800円



座っても物を載せても飾ってもよしの万能な丸椅子は、レトロはじめにもおすすめ。いくつも揃えたいくなる。
 (左) 9,800円
 (右) 8,000円



キツキマークでお馴染みの飛騨産業の椅子はデザインも秀逸。
 23,000円



「ゆらゆらガラス」が特徴的な明治時代の食器棚。上下2つに分かれるので、左右に並べて使ってもOK。
 2つセットで88,000円